

学校 教育 目標	あかるく さわやか ひとみきらきら あさひつ子 ○思いや考えを伝え合いながら、主体的に学び続ける子を育てます。(知) ○よく考えて行動し、自分も友達も大切にすることを育てます。(徳) ○心と体の健康・安全に関心をもち、進んで体力づくりや健康管理ができる子を育てます。(体) ○進んであいさつをし、身近な人や地域社会に関わる子を育てます。(公) ○身に付けた力をいかして、挑戦する子を育てます。(開)					
学校 概要	創立 120 周年	学校長	益子 照正	副校長	藤田 明彦	2 学期制 一般学級: 21 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 744 人 主な関係校: 寺尾中学校 上寺尾小学校 東台小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力		中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
《主体的に学び続ける力》 《思いや考えを表現する力》 《よりよい社会の実現を目指す姿勢》		寺尾中学校 上寺尾小学校 東台小学校 旭小学校	人とのかかわりの中で、自分らしさを表現しながら、主体的に学び続ける子ども ○ブロック内各校の授業研究会に参加し合うことで、児童に身に付けさせたい知識、思考力、表現力などについて共通理解を図り、ブロックで育てたい子ども像の実現に向かって授業実践に取り組めるようにする。 ○教務主任会や専任会を定期的に開催し、「9年間で育てる子ども像」の実現に向けてブロック内各校が足並みをそろえて教育活動ができるようにする。

中期 取組 目標	○《安心》《つながり》を大切に、児童が自分の思いや願いを実現させることができる学校をつくります。 ・児童が自己有用感をもって安心して自分らしさを発揮できるよう、チームで一人ひとりをていねいにみとり支援します。 ・防犯・防災や、児童の安全を守る視点から危機管理体制を整えるとともに、児童の安全に対する意識を高めます。 ・思考力、表現力の育成に力を入れ、「話し合い活動」など児童同士がつながり、深め合う学習を大切にします。 ・児童が自らの成長を自覚しながら規範意識を高めていくことができるよう、異学年での交流機会を多く設定します。 ・保護者と学校とがより密接につながり、楽しく協働しながら子どもを育てていけるようなシステムづくりを進めます。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
児童生徒指導	①全教職員が全児童に共通した指導を行えるように共通理解を図る。そのためにテーマを絞った研修を重ね、意識を高める。②特別支援教育の視点をもって指導に当たることを重点として取り組むことを確認し、児童の情報を共有する。担任する児童だけでなく、全職員が子への支援を可能にする。	
	担当 人権・児童指導	
豊かな心	①コロナ禍の昨年度に実施が不十分だった縦割り活動については、2学年ごとのブロックでの活動を基本線に年間を通して実施し、上学年、下学年児童それぞれに学びがあるように工夫する。②授業を通じて情操を育成することを重視し、児童間の関わり合う場面を保障して、心情をはぐくむ。	
	担当 特活部・研究推進委員会	
特別支援教育	③配慮を要する児童については、教職員全体で共有し、関係機関との連携を図りながら指導のばらつきによる不安を生じないように努める。②配慮を要するかどうかにかかわらず、全児童の個を大切にする共通理解のもと、児童のよさに着目して伸長を図る指導に取り組む。	
	担当 教務部・研究推進委員会	
確かな学力	①特定の教科に偏ることなく「資質・能力」を育成するための授業づくりを目指す。研修や授業を伴う研究を定期的に配置しながら推進し、児童が自ら考えを広げる授業づくりを目指す。②教材研究に力点を置き、楽しい、わかる(できる)授業づくりを目指す。	
	担当 研究推進委員会	
健やかな体	①一校一実践については、コロナ禍でも実践可能な運動を探り、児童委員会活動の中で定期的に集会を開催するなどして運動の日常化を図る。②学校保健委員会において全校児童に働きかけて「感染症に負けない心と体」をテーマに全校で取組を展開する。年間2度の発表の場をもち、共有する。	
	担当 体育部・保健安全部	
安全管理	①昨年度完全実施できなかった避難訓練については、コロナ禍であってもできる方法を見出し、有事における行動につながるように計画・実施する。②登校班制度の充実を図るために内容を点検し、成果と課題を洗い出して保護者・地域の協力を仰ぎながらさらなる改善を図る。	
	担当 安全部	
地域連携	①昨年度実施を見送った授業参観、懇談会については、方法を模索しながら実施の可能性を探る。120周年記念式典開催を予定しており、感染拡大状況に適応した方法で実施する。②次年度に「学校運営協議会」を開設することを念頭に、地域との情報共有を図る。WEBページを積極的に更新する。	
	担当 教務部・行事部	
いじめへの対応	①現在のいじめ認知システムをよりよいものにしていくために、校内での認知方法を見直し、全教職員の感度を上げるように努める。②児童支援専任教諭を中心とした組織構造を確立し、第一に未然防止、第二に早期発見を合言葉に全教職員で児童の様子を把握し、解決にあたる。	
	担当 人権・児童指導	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①「教職員の元気が子どもの元気」をスローガンに、一部の職員に偏らない業務分担、児童下校後時間帯の有効活用、会議の精選を目標に「負担を軽減しても教育の質を落とさない」組織改革を進める。②定期的に設定した研修以外の場を活用した教師の指導力向上に資する研修方法を模索する。	
	担当 教務部	